

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年9月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700116
法人名	アール・エイチカンパニー株式会社
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本2547-1 (電話) 0994-28-1755
自己評価作成日	平成28年8月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年9月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点

- ・「市民救命士のいる事業所」として10名の普通救命士資格取得者(職員)を確保し、地域貢献を図っている(資格取得へのチャレンジ)
- ・緊急時の体制強化(利用者の安全確保に向けて、系列の医療機関との24時間連携体制の強化に努めている)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は「市民救命士のいる事業所」として指定を受け、地域での緊急時の対応を行っている。認知症ケア専門士の有資格者も在籍し地域の相談窓口としての役割を担っており地域に根差した施設としての運営を行っている。
- ・系列の医療機関と24時間医療連携体制が取れており、「この施設で最後まで」との利用者・家族の希望が多く、重度化や看取りの希望に応えられる体制が整っている。看取りの実績が数件ある。
- ・施設長自ら資格取得に挑戦し、職員へも奨励しており各種研修会や勉強会参加も積極的に行い、認知症ケア専門士や介護福祉士・介護支援専門員などの有資格者が多い。
- ・職員間や管理者とのコミュニケーションも取れており、職員も生き生きと働いている。小旅行や食事会等を計画し職員とのコミュニケーションを図っている。
- ・防災対策は、消防避難訓練への地域住民参加や自動通報装置への地域住民登録など協力体制が整っている。

ゆう ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し実践を通じその意義を考えながら日々努力している。	地域密着型の理念を、玄関やホールへ掲示し、パンフレットにも掲載している。朝礼やミーティング・申し送りノートで、日々のケアを振り返り、理念を共有し、介護優先をモットーに振り返りを行い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中の利用者ではなく地域の一員として日々生活が送れるよう事業所は日常的交流を行っている。	自治会に加入し地域行事への参加を行い、日常の挨拶等、地域にとけ込んだ関係を結んでいる。近隣や地域住民が気軽に訪れ、野菜や米等の差し入れがあったり、事業所での夏祭りやそうめん流し等、地域と一緒に取り組みをしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症という自覚のない人々の想いを理解し支援するという取り組みは日々の実践による積み上げの末に活かされてくるのではないだろうか、その専門職である我々は少しでも地域の方々の難しいに向けて力添えしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を通して今事業所で行っている事や利用者へのサービスの実際或いは評価等について状況の報告等を行いそれに対する意見や自治会などの要望なども考慮に入れこれからの事業所のあり方に活かしていけるよう考えている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催し、事業所の活動状況や利用者の状況・役場からの周知事項・外部評価の報告等が行われている。自治会から夏祭り等の意見があり、住民にも参加を呼びかける等、意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>日頃から町の担当者とは連携をとり事業所の実情や職員のケア向上のための研修状況等を話し合い積極的に協力関係を築けるように努力している。</p>	<p>毎月、窓口に行って書類更新や事業所の実情・ケアサービスの取り組みを伝えている。行政主催の研修会にも積極的に参加し、協力関係を築くように取り組んでいる。保護課との連携も取れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全ての職員が「身体拘束をしないケアの実践」について理解しており、常々拘束の意味についても勉強し日々取り組んでいる。</p>	<p>指針・マニュアルがあり、職員は身体拘束しないケアについて勉強会や外部研修会に参加して、身体拘束の具体例を理解している。自分がされたら嫌なことは、利用者にならないように努めている。玄関の施錠はせずに外出の際は、落ち着くまで同行支援をしている。近所の方にも見守りの協力をお願いしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者を含め職員は「虐待防止」の研修を受け事業所内での虐待が見過ごされる事のない日常が送れるよう注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>自立支援や成年後見制度について学ぶ機会は持っているが今現在活用されている利用者は一人もいないしかし必要性があれば活用できるよう支援していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に利用者及び家族に対し不安が起らないように納得いくまで説明を行い又料金の改定などに伴い家族会等で説明したうえで改定を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>当グループホームに対する家族の意見や要望等を管理者及び職員は素直に受け入れそれを運営に反映している。職員は普段から家族などとの会話を増やし自由に意見が言えるよう雰囲気作りに取り組んでいる。</p>	<p>利用者からは日常のケアや表情から汲み取るように把握している。家族については、普段から何でも言っていただけの雰囲気づくりに努め、面会時や毎月の状況報告時、年2回の家族会などで意見や要望を聞いている。電話でも聞いている。家族会は職員が参加しないで自由に意見を言っている。家族からの要望で、家族報告書を導入し運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者・管理者は食事の場を多く設け、なるべく自由に職員が意見や提案を述べられるような機会を設け、出来る限り取り入れるよう努力している。</p>	<p>代表者や管理者は日頃からコミュニケーションをとり、意見が言いやすい雰囲気づくりをしている。朝のミーティングや勤務中・食事会・職員旅行の時等、意見や提案を聞く機会を設けている。職員の提案で、地域との連携を深める為、敬老会で職員と利用者で演奏をする等、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は管理者を含め全ての職員の個々の勤務状況・或いは仕事に対する努力などで給与水準を決定し各自が仕事にやりがいや向上心を持てるよう職場環境の整備を進めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員それぞれの力量を見極め個々に合った研修を受けられるような機会を設け一人ひとりが自分を伸ばせるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>個別の交流はなかなか難しいが町を通じサービス向上のための勉強会や懇親会等によりネットワークづくりに参加している、なかなかむずかしい（田舎では）面も多い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の段階では本人の困りごと・不安なこと・要望がなかなか確保出来ない、日々の関係づくりの中で本人が安心して生活出来るよう職員全てが不安のない生活が送れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所段階では家族の不安も大きく事業所はどんなことに困っているのか・どんな生活を望んでいるのか家族の要望などに耳を傾け家族との関係づくりを大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所ではサービスの利用を開始する際今まず必要な支援の内容を見極め本人と家族に対して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で共に生きる事を前提に職員と利用者は支え合い助け合った日々を送りお互い関わり合いを密にして何が大事か模索している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族に出来るだけホームに遊びに来ていただけるようお願いし本人と家族の絆が希薄にならないよう支援しながら家族と共に本人を支えていけるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている物或いは今まで関わり合ってきた人々との関係を途切れることなく支援し心の場所が無くならないよう努めている。	地元出身の利用者が多く、家族・知人の面会もゆっくり話ができるようお茶を出して対応している。手紙の支援や電話の取次ぎ、自宅方面へのドライブ、地域行事への参加や地域住民参加型の行事を実施するなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに個性があり利用者同士ぶつかりそうになる場面が時々見かけられる職員が間に入りお互いに声掛けをしてその場の雰囲気を和ませられるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の入院等で契約が終了しても家族は事務所に農作物等の差し入れや旅行の土産などを持ち珈琲飲みに立ち寄ってくださる今の状況の相談だったりこれからの心配だったり出来る範囲で支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全ての人が自分の思いや希望が伝えられるわけではないが一緒に暮らしていく中で職員は気づきの中から少しずつでも本人の思いをくみ取り出来る限り本人の想いに近づけるよう努力している。	入居時のアセスメント、家族からの情報、日常生活での会話や表情・しぐさ等から思いや意向をくみ取る様心がけている。意思疎通が困難な場合は、職員の声かけや家族の気づき等から職員間で情報を共有し本人中心のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での暮らしから集団生活へと生活環境が変わる中でそれぞれが戸惑いの日々ではあるがこれまでの生活環境や馴染み親しんだ物・人等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今現在の心身状態やその人が有する力を把握し一人ひとりがどの様な過ごし方をしているのか職員は見定めその人に合ったのんびりとそしてゆったりを支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症はチームケアで課題に取り組んでいる、些細なことで戸惑いパニックになられるこの病気は現状把握と現状に即した介護が必要である、必要な関係者がそれぞれの意見を反映させ皆で介護計画を作成している。	本人や家族・関係者と話し合い主治医の意見も聞き、担当者会議を開き、それぞれの意見やアイデアを反映させ、介護計画を作成している。モニタリングは3～6ヶ月毎に行い、状況変化があった時はその都度、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の気づきや工夫・ケアの実践その結果等を記入し職員間で情報を共有しながら実践・介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は日々変わる本人・家族に生まれるニーズに対応しながら出来る限り介護計画にとらわれずその時々に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームを支えているのは多くの地域資源であり家族以外の多くのパワーをいただきながら毎日を安心して暮らし本人が持てる限りの力を出せるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診では家族との連絡を取りながら適切な医療を受けられるよう支援し、かかりつけ医以外の専門外医療支援も家族と一緒に職員が付き添いまた遠方の家族に代わり職員が医療を受けられるよう本人の不安のないよう支援している。	入居時、本人や家族と話し合い、現在の受診の希望を把握して、かかりつけ医を支援している。週2回の往診と必要時往診がある。24時間医療連携体制が整っている。他科受診については家族の協力を得ながら、必要に応じて付き添いや職員対応で支援し、家族に電話等で連携をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は日常の関わりの中の気づき等の些細な情報も見逃すことのないように訪問看護師に伝え個々の利用者が適切に受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合見知らぬ人の中で混乱が起これないように職員或いは管理者・施設長が面会をし病院関係者と情報交換し早期退院につながるよう関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者が重度化した場合や終末期のあり方については常々から家族や本人（わかる範囲で）と話し合いを行っているが事業所で出来る事は限られておりまた家族においても時がたつとともに意見が変わる事も多くお互い関係者間で内容が共有できるような支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時、重度化や終末期に向けた事業所の体制・方針を説明し家族の意向の確認を行っている。ターミナルケアについてもその時の現状を踏まえて、主治医と関係者、家族と話し合いを重ね、意向に沿ったケアが行われている。看取りケアも十数件の事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変・事故発生時に備えて全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を受け実践力を身に付けるよう取り組んでいる。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災・地震・水害等の災害時に、24時間体制で利用者が避難できるよう全職員が身につけるとともに自治会の方々（地域の方々）との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回消防署立ち合いで防災避難訓練を実施している。避難経路、避難誘導、器具の点検等をしている。ホールに大きく避難経路が掲示され、普段から意識付けが行われている。自主訓練は年に4～5回あり、火災、地震のマニュアルもあり、地域住民の協力体制ができている。通報装置やスプリンクラーが設置されている。居室の入り口には、避難したか確認できるよう表札の工夫がされている。ヘルメットも用意され、災害時の水やカンパン・レトルト食品等、3～4日間分の備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の人格を尊重し言葉によるプライバシーの侵害が起きないように注意をし一人ひとりが誇りを持って生活が送れるよう努めている。</p>	<p>マニュアルや個人情報指針があり人格の尊重とプライバシーについて、勉強会や研修会に参加している。排泄や入室・風呂の介助などさりげない言葉かけや羞恥心に配慮して、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>出来る限り自己決定を支援し日々の生活の中で本人の思いや希望が人に伝わるよう支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の生活を優先し職員が自分たちに合わせることなく利用者が自分の時間を過ごせるように努力している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>年齢を重ねてもその人らしく身だしなみやおしゃれを応援し誕生日祝いも女性らしく・男性らしくを考えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者においては食事が楽しみの一つである、それぞれの好みを把握し出来る限り楽しみが増えるよう職員は利用者と共に食事の内容等話しながら食事し、食器のかたづけ等出来ることの手伝いをしている。	食事は利用者の嗜好に配慮した献立を工夫し、食事形態も利用者に合わせて物となっている。職員も同じ食事を会話しながら一緒に食べている。能力に応じてじゃが芋・玉葱の皮むきや準備や片付けなど職員と一緒にしている。季節の旬の食材の使用や花見弁当・ソーメン流し・誕生会・節句・おせち料理など、食事が楽しめるような支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の量や水分の量が確保出来るよう一人ひとりの状態に合わせて栄養バランスを考えながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内が不潔にならないよう毎食後それぞれの口腔状態に合わせて出来ない人は職員が、出来る人は出来る範囲で補助し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を応援し自立に繋がるように支援している、又オムツ使用の方もお昼は排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を基本に支援している。羞恥心に配慮し、さりげなくトイレ誘導をしている。入居時、おむつ使用の利用者が布パンツに移行した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜・牛乳等を食事に使用し出来る限り薬のない生活に取り組んでいるが便秘の原因はそれぞれでリハビリ運動などへの参加なども予防の一環として取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	現在は入浴好きが多く本人の希望でシャワー浴・入浴等、本人に合わせて入っていただき出来ることは自分でやっていただき話しかけを増やし楽しい入浴時間が過ごせるよう支援している。	入浴は基本的に週3回、本人の意向に沿って支援している。必要時はユニット間で連携しながら、いつでも入浴可能となっている。毎日入る利用者もいる。入浴を拒む時は、時間をずらしたり、職員を変えたり、タイミングをみて対応している。眠れない時は清拭や足浴を試している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自分の時間をゆっくりと過ごされソファでお昼寝或いは他の利用者との会話などで一日が過ぎ夜は安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は目的に応じて職員が利用者に説明し服用していただいている、服用による症状の変化はかかりつけ医に連絡するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々がマンネリ化しないように生活の中に利用者の好みに合った踊り・カラオケ・貼り絵等々を取り入れ気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	手添え等で歩ける人は買い物などに同行したり家族との面会時に食事につれて行っていただいたり、花見など出来る限り連れて出るよう心掛けている。	その日の希望にそって天気の良い日は散歩やスーパーマーケットへの買い物、ドライブを兼ねて自宅周辺や友人宅等へ出かけている。車椅子利用者も外出支援している。家族の協力を得ながら墓参りや外食、年間計画で花見や見物など、日常的に外出の機会を工夫し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しではあるが金銭管理の出来る人はサイフにいくらかのお金を入れ散髪代など自分で支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	会話の成り立つ方は電話に出ているが多くの人が難聴が強く電話でのやり取りが難しい、物が送ってきたのに返事をもっとも自分の名前がやっとなで文は職員が代筆をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとってそれぞれに好きな場所があるようである、ソファでも同じ場所にいらしゃる。ホームでは季節の花をテーブルに置いたり絵画や版画などを飾り居心地のよい空間づくりに力を入れている。	リビングは換気や温度・湿度の管理が調整され、掃除も行き届いている。テーブルやいすの他に大きなソファが数か所置かれ、それぞれが好みの場所でくつろげる環境となっている。ウッドデッキへ出入りができ、開放的である。壁には季節の手芸作品や懐かしい歌詞が大きく展示されている。癒しの熱帯魚や絵画・花等、生活感があり、ゆっくりと居心地よく過ごせるよう工夫されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間においてはそれぞれ気の合った仲間と会話を楽しんだり自分の部屋をかたづけられたり職員とゲームを楽しんだり出来る限りのんびり出来る場所づくりに力を入れている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には普段から使い慣れたものや好きなものを置き居宅にいた時と変わらぬような雰囲気づくりをし又お子さんやお孫さん等の写真などを貼り居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	<p>居室は広く、ベットやエアコン・タンスが設置されている。使い慣れた品物や家族の写真・飾り物・植木鉢・ぬいぐるみなどが持ち込まれ、位牌を安置されている利用者もいる。それぞれ個性的な居室で、本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの「出来る事・出来ない事」又「わかる事・わからない事」を把握し自立に向けた生活が出来るよう支援し、「わからない事・出来ない事」が出来るだけ増えないように工夫し安心して生活が送れるよう努めている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない